

ハウスの中に植えたムギと福広さん。ここにつくアブラムシをエサに、アブラムシの天敵であるアブラバチを殖やして夏秋トマトや冬のコマツナなどのアブラムシを防ぐ(写真はすべて赤松富仁撮影)



野菜二〇品目完全無農薬

いつの間にかコナジラミもコナガも減っていた

三重県名張市・福広博敏さん

編集部

トマトも葉ものもクスリゼロ

福広博敏さんの畑におじゃますると、プロットコリーのウネにムギが植わっていた。ハウスの中をのぞくと、ここにもムギが。道端にはクローバーやヨモギがヒツシリ。どれも意識的にタネを播いたものの、土着天敵を殖やすためのパンカープランツである。

福広さんは、二〇品目くらいの野菜を無農薬でつくる。夏秋トマトは二年前から、露地野菜は四、五年前から、完全無農薬。しかも、植物エキスや活力剤など

の「散布もの」でさえ一切使わない。「どうしてもかけないといけないなら仕方ないけど、それなしでできるのだから」と福広さんは自信を見せる。

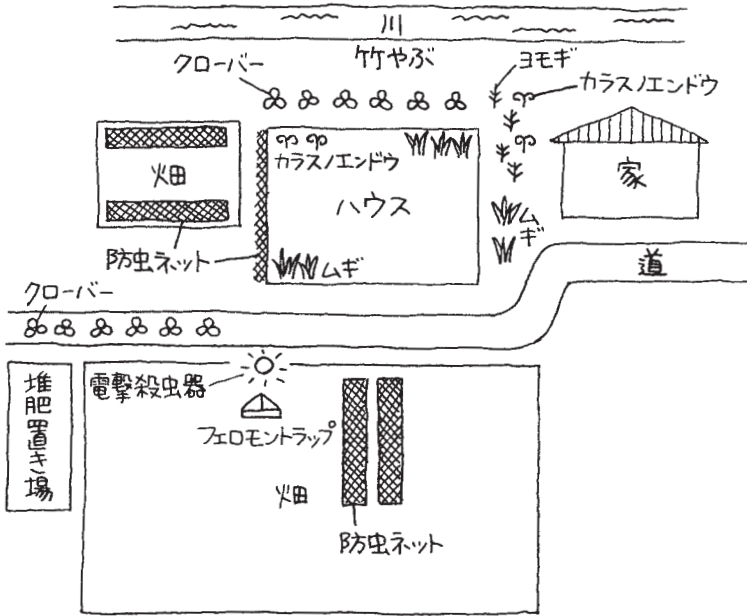
そんな福広さんの無農薬を支えている大きな柱が、苦土施肥(二〇〇二年三月号、十月号、二〇〇三年三月号参照)、防虫ネット、そして土着天敵だ(ネットについては127ページ)。

夏秋トマト

ネットで防げない虫は天敵に任せる

天敵 いっぱいの空間をつくらう

図1 土着天敵が働いてくれる福広さんの畑まわり



福広さんのトマト害虫防除の考え方は、「大きい虫はネットで、小さい虫は天敵で防ぐ」というものだ。小さい虫ま

でネットで完全にシャットアウトするのは現実的にムリ。それよりも天敵に働いてもらうほうが自然である、というわけだ。すなわち、オオタバコガやヨトウガをネットで防ぎ、コナジラミ、アブラムシなどは天敵で抑える。これで福広さんは、七、八段で七、八七とる。

コナジラミの土着天敵が居ついた！

福広さんが現在利用している天敵はすべて土着天敵。購入天敵でいいものがあるれば使うが、なければ土着天敵を殖やす。

福広さんがいちばん最初に天敵を買っ

たのは、まだトマトを春と秋の二作していたころ、オンシツコナジラミの天敵であるオンシツツヤコバチだった。あるとき、春作にツヤコバチを入れようと思つたら、下葉にすでにオンシツコナジラミのマミー（蛹）があるではないか。コナジラミ幼虫にツヤコバチが寄生して黒い蛹になっていたのだ。どこから飛んできたのか、近くの草むらで越冬しているのか、とにかくマミーができていた。そこで、メーカーのいう数の半分のカード（一〇a当たり四二枚のところを二〇枚）でツヤコバチを定着させるやり方にしてみた。それでもコナジラミは抑えられなかった。六月ごろに粘着トラップを見ると、コナジラミよりツヤコバチの数のほうが多かつた。それが三、四年前。

二年ぐらいそうやってメーカーのいう数の半分のマミーカードで続けた後、ついにマミーカードを買うのをやめ、ここ二年間は一枚も買わずにコナジラミは土着のツヤコバチで抑えられている。まわりの農家がコナジラミ対策にラノーテープを使うようになって、コナジラミの絶

対数が減ったせいもあるのかもしれないが。

ちなみに福広さんのハウスで発生しているコナジラミはオンシツコナジラミ。いま全国的に問題となっているシルバリーフコナジラミは、夏から秋にかけて発生するので、福広さんの夏秋トマト（収穫は七月まで）ではほとんど問題にならないという。

ヨモギ・ムギで アブラムシの天敵殖やす

だが、ネットで防げないトマトの害虫



ハウスの中のムギでムギヒゲナガアブラムシ(?)らしきアブラムシとマミー(蛹、矢印)を発見。トマトにつく大型のヒゲナガアブラムシを天敵アブラバチが食べてくれるかもしれない

はコナジラミだけではない。アブラムシがいる。

トマトに悪さをする体の大きいタイプ
のヒゲナガアブラムシは、現在売られているアブラムシの天敵「コレマンアブラバチ」では効果はない。ならば土着天敵を殖やすしかない、と福広さんは、去年、ヨモギのタネを買ってきてハウスまわりに播いてみた。

ヨモギには、ヨモギヒゲナガアブラムシとかヒメヨモギヒゲナガアブラムシがよくつく。それをエサに殖える土着のアブラバチにトマトのヒゲナガアブラムシ

を食べてもらおうというねらいだ。

ハウスの中に植わっているムギは、もともと冬のコマツナにつくアブラムシ対策だ。ムギにつくムギクビレアブラムシをエサにモモアカアブラムシなどの天敵のアブラバチが殖えてくれるのを期待している。ところが、ムギをよく見ると、どうもムギクビレアブラムシでないアブラムシとそのマミーもいる。こいつはムギヒゲナガアブラムシ? もしかしたら、これにつくアブラバチもトマトのアブラムシを食べてくれるかもしれない。

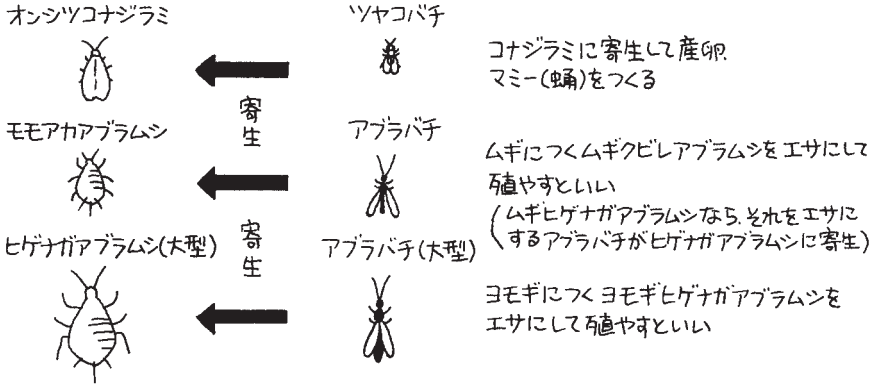
夏秋作型だと

トマトサビダニは出にくい

ところで、農薬を使わなくなると被害が出るといわれるのがトマトサビダニ。ルーベで見ると、かろつじて動いているのが見えるというくらい小さな虫だが、増えると茎や葉が茶色くなってしまふ。いまのところ日本ではこの天敵は売っておらず、こいつも土着天敵に期待したいところだが、幸い福広さんは夏秋の作型のおかげで大きな被害は免れている。

天敵 ippaiの空間をつくらう

図2 福広さんの畑で働く土着天敵と害虫の関係



る。

福広さんによれば、トマトサビダニの生育に適した条件は「中温乾燥」。春と秋に乾燥したときにしやすい。かつてトマトを春と秋の二作していたとき、じい一つと見ていたら、冬だと一週間から二週間かけて一株移動するのが、五月に入ると一日で一株移動するようになるのがわかった(茎と葉の色が変わる)。そしてまた梅雨時期にはじつとし始め、梅雨が明けると増殖は止まってしまっただうだ。

露地の葉ものクローバーでアブラムシの天敵殖やす

福広さんは、ここ三丁四年、コナガをあまり見なくなったという。七年ほど前にいちばん被害がひどかったのはコナガだったはずなのに。天敵のクモが殖えたのだろうか。さらに、アブラムシの被害もずいぶん減っている気がする。「よその畑でアブラムシがひどいときで

も、うちの畑では被害が少ないことがあったし、コマツナに天敵のマミーがついているのも見ましたよ。天敵のアブラバチは〇・八mmネットを自由に出入りできるみたい」

「苦土とかを入れてチツソ過剰を抑えていることも関係すると思うけど、土着天敵の効果も大きいと思う。『アブラムシがわくと抑えられない』ではなく、『いるけど大したことない』という感じ。これは天敵がいる証拠だと思っ」

三年ほど前、畑まわりにクローバーを播いてみた。ここにやってくる小さいタイプのアブラムシをエサに、アブラムシの天敵であるアブラバチが殖えてくれることを期待してのことだ。その他、畑まわりのカラスノエンドウを絶やさないと、クローバーと同じ効果を期待している。今年ソルゴーも播くつもりだ。「畑の中の草は生やしたくないけど、畑のまわりには天敵の付く草を生やしたいな」

そう考えて、福広さんはいま、天敵が集まる草をいろいろ探している。